

平成 20 年 5 月 21 日 定例記者会見

欧州評議会・地方自治体会議総会への出席（全国知事会）について

今の時代のことで、これはヨーロッパも共通のことですが、グローバル化と地方、地域格差あるいは地方分権というのが大きな課題だと、私は「知事の立場として思っています」というプレゼンをしたいと思っています。

グローバル化の中で地域をどうするのか、これはヨーロッパはグローバル化の中でEUの統合をどのようにするか、特に新規加入のEUとの格差をどのようにするのかというのは、ちょっと規模は違いますけども、大きな課題であろうかと思えます。

その過程で、この前の胡錦濤中国国家主席とのランチの対話も、興味を引かれるかもしれないのでご紹介しようかと思うんですが、中国は一国の中ですけども、グローバル化の中での中国は、地域格差というのが大きな政治課題になっています。日本もサイズは違いますが、グローバル化の中での地域格差が問題になっています。輸出主導経済の中だけでは、地域格差が解消できない課題だと認識していますというようなプレゼンをしようかと思えます。

EUの中でも域内の交流を通じて地域格差を是正しようという動きがどれほど強いのかということ、対話の機会があれば確認してこようかと思っています。

それと、研究テーマですが、スピーチの中に入れるかどうかわかりませんが、国と地方分権といった、向こうもディセントラリゼーション(地方分権)というテーマがずっと続いているのですけれども、そんなにうまくいっているような報道といいますか心配もないように思えます。それが最近どのようになっているのかどうかを、会議に出席したり文献を探したりして、研究を進めたいと思っています。特に日本の地方は多層化された地方ですよね、県と市町村、その間に政令指定都市や中核都市があります。しかも道州制をつくるというのだから、地方を非常に多層化している国だと思えます。

それと、中央は縦分権化というのかな、中央集権、中央分権なんですね。中央が縦に分かれています。それがヨーロッパの国と地方との関係、地方間関係、地方間関係は地域関係ではなく、例えばアメリカでは、フェデラル(合衆国)とシティー(市)とカウンティ(行政区画:州や県の意味)とディストリクト(地方)とか、その権限がどのように分かっているのかという研究が、県と市町村との関係を研究する上であまり論文がないものですから、ヨーロッパの例をもう少し勉強してこようかなと思っています。